



共に活動することで共に成長

～居住地校交流を通して～

鹿児島市立喜入小学校



本校は、令和6年度に、創立155年を迎えた歴史と伝統豊かな学校です。令和6年度の児童数は241人、全12学級という小規模校です。学校教育目標を「夢に向かって、共に学び、磨き、鍛える喜入っ子の育成」と定め、「言語能力」「情報活用能力」「自己管理能力」「多様性を尊重し協働する力」の4つの資質・能力の育成を目指し、保護者や地域の方々の協力を得ながら、教員共に、日々の教育活動に取り組んでいます。

居住地校交流とは

「居住地校交流」とは、特別支援学校に通う児童が、居住する地域の小学校の児童と一緒に交流や学習活動を行う取組です。共に学ぶ中で、相互のよさについて理解を深めることや同じ地域の一人として認め合うことを主な目的としています。本校では、互いの個性を理解し、互いに尊重し合い、協働する貴重な機会と考え、指宿特別支援学校



1回目交流

世界に一つだけの木

との居住地校交流に積極的に取り組んでいます。

令和5年度は、本校5年生37人と指宿特別支援学校5年生1人との交流活動を2回（6月・10月）行いました。その様子を紹介します。

6月、1回目の交流活動

みんなで活動できることを考え、音楽と図工の学習を計画しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、4年生まで交流活動に取り組んできたものの、久しぶりの再会に、お互いに少し緊張した様子が見られました。

しかし、歌と一緒に歌ったり、これまで各校で取り組んできたリコーダーの演奏を紹介し合ったりする活動を通して、次第に笑顔が増えていきました。図工では、全員で協力し、世界にひとつだけの木を作りました。模造紙の大きな木の幹の周りに、子供たちがそれぞれに描いた花や葉などを貼ります。ひとつの作品を一緒に作り上げることで、会話も生まれ、距離もぐっと縮まったようでした。交流児童も「声をかけてくれたり、ハイタッチしてくれたりして、うれしかった。」と、うれしい感想を残してくれました。

10月、驚きと喜びの2回目の交流活動

音楽と学級活動の学習を計画しました。音楽では「キリマンジャロ」をピアノやリコーダー、打楽器などに分かれて演奏しました。交流児童の見事なリコーダー演奏に「ほくより上手だ。」と驚きの声があがっていました。なかには、たくさんの方々に尊敬しますとの感想を残す児童もいました。1回目の交流活動時以上に難しい曲と一緒に演奏できたことをみんな喜んでいました。

そして、学級活動では、今年1年を振り返り、自分だけの今年の漢字を紙皿に描きました。交流児童と同じグループで活動した児童は、「いっぱい



2回目交流

今年の漢字

話すことができました。」と喜んでいました。共通の目的をもって一緒に取り組むことは、会話を生み出し、お互いを知るよききっかけになるのかもしれない。

花道をつくってお別れ、そして「またね。」

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ここ数年、年1回の交流活動でしたが、今年度は2回実施することができました。少し変化のある、そして、少し難易度の上だった活動に取り組む中で、お互いの特長やよさを知り、お互いの頑張りやより認め合える交流となりました。児童らの柔和な表情は、そのような心地よさを感じているようでもありました。

この心温まる居住地校交流が、本校の育てたい資質・能力である「多様性を尊重し協働する力」の育成につながっていることを、たいへんうれしく思います。そして、同じ喜入地区に住んでいる仲間として、もつともつと共に活動する機会が増えることを願います。

最後は、お迎えの車まで、花道をつくり、みんなで笑顔たくさんのお見送りをしました。

「ありがとう。またね。」

（教頭 溝江保文）